

児童虐待のない社会に！



台東区
議会議員

ほんめ
本目さよ

発行：台東区議会議員 本目さよ 上野桜木2-1-9-6A

本目さよ
プロフィール

1982年3月10日生 36歳

私立成蹊高校、白百合女子大学を経て、お茶の水女子大学大学院修了研究テーマは『夫婦の情緒的サポートと育児ストレスの関係』修了後はIT系人事職として、社員が働きやすい会社づくりにつとめる。2011年より台東区議会議員。2015年に再選を果たす。台東区では唯一の30代女性議員。声なき声を聞くという意志と、少子高齢化への特効薬としての子育て支援に力を入れていることからキャッチフレーズは「子育て、本命！ーやさしい政策ー」。「議員のあり方」とは何か？を模索しながら区民の方々との双方向的な取り組みを実施している。政策を実現できる超党派若手女性議員のネットワーク「WOMAN SHIFT」代表。一児の母。

党籍：無所属
会派：たいとうフロンティア
資格：保育士
趣味：空手・読書
おかしづくり
好きな物：納豆・くだもの

- ☐ <http://www.sayohomme.com/>
- f [facebook.com/hommeisayo](https://www.facebook.com/hommeisayo)
- 🐦 @sayohomme
- 📍 <http://ameblo.jp/hommeisayo/>



性別にかかわらずいきいきと暮らせる社会へ

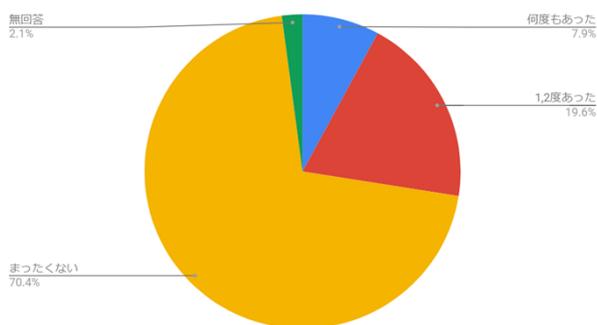
自分の性別や恋愛対象について悩んだことがある人が5.9%

台東区では男女平等に関する区民意識調査を実施し、その中で「自分の性別や恋愛対象などについて悩んだ経験の有無」について尋ねたところ、**自分の性別や恋愛対象などについて悩んだ経験があるか？尋ねたところ5.9%の方が「ある」と回答**しました。約17人に1人で、悩んだことがある人はクラスに1~2人はいることになります。

また、ドメスティック・バイオレンス（DV）について、配偶者、パートナーまたは交際相手からの被害経験の有無を尋ねたところ「何度もあった」「1、2度あった」という被害経験がある人が男女合わせて全体の27.5%でした。台東区の約4人に1人がDV被害経験があるということになります。前回の計画では24.3%が被害経験があると回答し、H31年には撲滅を目指すと言われていましたが逆に増加しています。これはDVという言葉の認知が上がったことなども一因だと考えられます。

これらの結果をふまえて、H32年からの台東区男女平等推進行動計画をつくっていくため、しっかりと課題点が改善されるようにチェックしていきます。

配偶者、パートナーまたは交際相手からの被害経験はありますか？



女性が自分の健康を守り、性や妊娠・出産に関して自分で決めるうえで、あなたはどのようなことが必要だと思いますか？という質問に対して、一番多かったのが「こどもの成長と発育に応じた性教育」であり全体の63%が必要だと回答。女性は69%つまり約7割が必要だと回答しました。大正小学校では家庭教育学級で性教育について講演が行われ多くの保護者が参加していました。こうした取り組みの拡大が本目さよは重要だと考えています。



ジンジャーとさよ



台東区議会では政治活動用のポスターを貼らないよって決議をしたと聞いたにや。どういふことにや？



公職選挙法ではね、公職の候補者等の政治活動のために使用されるポスターで一人で写って名前が書いてあるものは任期満了の日の6か月前の日から選挙期日までの間、その選挙区内に掲示することが禁止されているの。区議会議員選挙が近づいているから、それは貼れないのね。



選挙前にはよく、2人が並んでいるポスターが貼られてるにや？



そうそう。よく知ってるね。いわゆる二連ポスターって、任期満了の6ヶ月前から選挙まででも貼れるポスターなんだよ。正確にはAさんとBさんの街頭演説会の告知のポスターなんだけど。



つまり、その二連ポスターを自粛することを決めたにや？



うん。選挙前になると他の区とかでは一気にその**二連ポスター**が増えるんだけど、台東区って観光地でもあるでしょ？そして10km²の23区で1番小さな区でもある。だから、増えすぎるのもどうかな？ってことで、**お互い貼るのをやめましょって取り決めたの。**



だから**決議に賛成しなかった共産党さんと、決議に参加してない新人の人はポスターを貼ってるにや！**にやるほどにや。

台東区の20年後は？

平成16年10月に策定された基本構想ですが、時代の変化に伴い、再度策定し直すことになりました。基本構想の策定委員として、本目さよも参加し、**20年後の台東区がどうあるべきかを議論**してきました。今年度中には基本構想が策定され、それに基づき、今後の台東区の方向性や政策が決定されていきます。

昨年の保育園の最低入園指数が公表！

前年度の各保育園に入れた人の最低入園指数について、HPでの公表を以前から提案してきましたが、**やっと実現しました！**QRコードから御覧ください。もしくは本目さよのブログからもご覧いただけます。

<https://ameblo.jp/hommeisayo/entry-12412955435.html>



児童虐待がない社会をつくるために



小池都知事に超党派若手議員から提言書を！

2年以上前から若手の超党派の議員で児童虐待に関する勉強会を実施していました。6月に虐待死に関する世論が高まったこととともない、東京都に「**児童虐待のない社会を実現するための緊急提言**」～地域全体で子どもを育てる社会～を、都知事に渡しました。

保護者が子どもに虐待を行う背景には、社会的孤立、経済的困窮、保護者や子どもの疾患、保護者が過去に虐待を受けた経験など、様々な要因があり、**児童虐待は保護者の「SOS」である**ということ。

私達が実施してきた調査研究のなかで、虐待を受けた子どもたちが中高生になってから、学校、家庭、地域及び行政との繋がりが薄くなる傾向が**あり、貧困や虐待の連鎖を生む構造が見えてきました。多くの問題が複雑に絡み合うことが児童虐待の大きな課題となっている**ことを伝え、以下の提言をしました。

・児童相談所のイメージを子育て支援施設に刷新すること→児童相談所は怖いというイメージがあるが、本来は子育て支援施設である。

・全国の児童相談所、子ども家庭支援センター、警察との連携を検討を！

・今後の児童虐待を防止するために、中長期的な視点で子育て支援、青少年育成の拡充を！

「自分に何ができるか」という声が上がっている今だからこそ、地域で子どもを育てる大切さを広く周知してほしいと、子育て世代の地方議員だからこそ感じることを踏まえて提言しました。今後は各自治体で、それぞれの政策をすすめ、虐待のない社会に向け前進します。



小池都知事に提言書を渡す超党派の若手議員

12月3日の本会議で質問を予定

児童相談所に一時保護された子どもが親元に戻ったとしても再度虐待を繰り返すようでは意味がありません。虐待をしてしまった親に対する支援を充実する必要があります。また、**児童虐待により死に至るケースで一番多いのが、0歳0ヶ月0日の赤ちゃん**です。予期しない妊娠を防ぐことが虐待死を防ぐ重要な方策になります。そこで、**若年層からの性教育の充実と、虐待回復プログラムの実施を次回の一般質問（区長や教育長に提案・質問できる機会）で提案する予定**です。詳しくは次回のレポートでお伝えします！